



中大生の旅するチカラ

観光ジャーナリスト
千葉 千枝子

就職・転職・起業・子育て 夢を叶えて後進育成・観光NPOで社会貢献を

自分で会社を興して、今年1月で20周年を迎えた。振り返れば長いようで、あっという間の日々だった。起業といえばカッコがいいが、経営を続けることはいかに大変かを思い知らされた。会社は誰でもつくるができるが、それを維持継続、ひいては発展させることほど、難しいものはないと知らされた。

中央大学経済学部を卒業したのは、1988年のこと。雇用機会均等法の一期生として、都市銀行に就職した。それまでは大卒女子を、男子と同等に扱うことがなかった時代。女性行員としては初めて自転車支給され、東京駅・八重洲界隈の顧客回りを担当した。待遇に差はなくとも、男性中心の社会である。何より顧客の側が、預貸金の相談相手が若い女性行員であることを敬遠した。

都内に配属された同期たちが、次々と職場を離れ転職した。私もと、わずか1年半で飛び出して外資系の銀行に進んだが、それも長くは続かなかった。本当は何がしたいのか。自分探しをするなかで、大好きな旅の仕事をしようと旅行会社の門戸を叩いた。ときは団体旅行の全盛期。法人営業の外回りを志願して、ご旅行の企画、手配、添乗までを行った。仕事はことのほか楽しく、天職と思えた。

だが、時差のある海外添乗が続くと、

体力の消耗が激しい。仕事と家庭の両立はできても、子育てをしながら勤務するなら内勤に転じるしか方策がない時代だった。そこで出産を機に、退職することを決めた。職業に未練を残しての、30歳の決断だった。

長男が誕生してすぐに会社を興した。やがて二男が生まれると、毎日が戦争のような忙しさで、会社を切り盛りするのも精いっぱい。振り返れば、どうやって乗り切ってきたかと思えないほど必死だった。2003年に業種転換を行い、著述業に転じた。それが今の姿、観光ジャーナリストである。

昨春、長男が大学に進学したのを機に、創設から8年間携わったNPO特定非営利活動法人交流・暮らしネットの理事長を務めることになった。観光を専門にするNPO法人で、地方創生やまちづくりのお手伝いをしている。私企業経営とは異なり、社会貢献が主たる事業の目的だ。利益がでれば、翌年の活動原資に充てるのがNPOのあり方だが、やりがいも大きい。今度は、自分が経営する会社とNPO法人の運営との両立に悩まされる日々だが、これもうれしい悲鳴である。

かねてからの夢を実現したい。30歳



NPO法人交流・暮らしネットのバンを引き継ぎ理事長に就任した(2014年撮影)

で独立、40歳を迎えたら後進の育成をしたいと願っていた。それが叶い、6年前から幾つかの大学で観光学の教鞭をとるようになり、昨年からは母校・中央大学でも客員講師に迎え入れてもらった。

そして、今年50歳。今、このNPO法人は、旅行業の登録を目指している。貢献事業の派生のなかで、業法にのっとった事業の展開が必要不可欠に感じているからだ。これもまた長年の夢だったから、ぜひ開花させたい。

ここまでの道のりに、多くの方々に支えていただいた。そのほとんどが、なぜか白門の諸先輩方であった。駆け出しのころの書籍担当者、記者の方や編集長、大学教授の皆さん、そしてNPO法人の前理事長も中央大学のご卒業だ。

若いころには気づかなかった、母校のよさ。中央大学に学んで本当によかったと実感するOGから、新入生に贈りたい。ご入学おめでとうございます。

略歴 ちば・ちえこ 観光ジャーナリスト。
中央大学経済学部インターンシップ科目国際観光コース客員講師・横浜商科大学非常勤講師。
中央大学経済学部1988年卒。1996年有限会社千葉千枝子事務所設立。著書に「観光ビジネスの新潮流」(学芸出版社)など多数。

本稿をもって連載を終わります。ご愛読ありがとうございました。



卒業発表に学び舎で写真に収まる筆者(1988年撮影)



大学卒業の翌年、就職ガイダンスで母校を再訪した(1989年撮影)
富士銀行は現みずほ銀行

HAKUMON Chuo

学内配布場所一覧

多摩キャンパス

中大生が作る中大生のための情報誌『HAKUMON Chuo』は、各キャンパスの下記の場所で配布しています。

ぜひ手に取って読んでみてください。

後楽園キャンパス

各学部・大学院事務室、学生部、図書館、グリーンテラス、キャリアセンター
学友会、国際センター、生協2階、入学センター、炎の塔

市ヶ谷キャンパス

理工学部事務室、生協、ビジネススクール事務室

市ヶ谷田町キャンパス

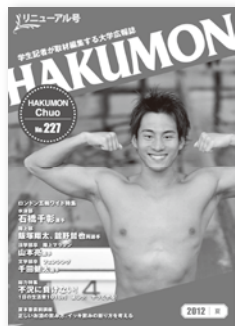
ロースクール事務室

駿河台記念館

総合インフォメーションカウンター、アカウンティングスクール事務室

駿河台記念館1階ロビー

最近3年間のバックナンバー



No.227 2012 夏



No.228 2012 秋



No.229 2012 冬



No.230 2013 早春



No.231 2013 春



No.232 2013 夏



No.233 2013 秋



No.234 2013 冬



No.235 2014 早春



No.236 2014 春



No.237 2014 夏



No.238 2014 秋



No.239 2014 冬



No.240 2015 早春

